

令和6年度 区立小・中学校における不登校の状況について

1. 【不登校の定義】

何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的理由による者を除いたもの

2. 不登校の状況について

(1) - ① 不登校児童・生徒数と出現率の推移

(単位：人)

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小学校	91	107	102
中学校	136	116	113
合 計	227	223	215
不登校出現率（小）	区：1.07% 都：1.78% 国：1.70%	区：1.22% 都：2.21% 国：2.14%	区：1.09% 都：－% 国：－%
不登校出現率（中）	区：8.21% 都：6.85% 国：5.98%	区：6.80% 都：7.80% 国：6.71%	区：6.19% 都：－% 国：－%

(1) - ② 令和6年度不登校の日数別内訳

【小学校】

※（ ）内は昨年度の児童・生徒の数。

(単位：人)

分類	日数	人数	支援状況
A層	欠席30日～49日	19（16）	担任の電話連絡、面談等が中心
B層	欠席50日～89日	31（30）	担任の電話連絡、面談等が中心
C層	欠席90日～約200日	44（51）	担任やスクールカウンセラー、適応教室等
D層	出席10日以下	5（6）	学校からの電話連絡や教育相談、放課後面談、適応教室等
E層	全欠席（出席0）	3（4）	適応教室に通室している例や、教育相談、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの面談や担任・管理職からの定期的な連絡など、個に応じた支援を実施している。
合計		102（107）	

【中学校】

(単位：人)

分類	日数	人数	支援状況
A層	欠席30日～49日	9（4）	担任の電話連絡、面談等が中心
B層	欠席50日～89日	16（12）	担任の電話連絡、面談等が中心
C層	欠席90日～約200日	61（68）	担任やスクールカウンセラー、適応教室等
D層	出席10日以下	16（18）	学校からの電話連絡や教育相談、放課後面談、適応教室等
E層	全欠席（出席0）	11（14）	適応教室・フリースクールへ通学（通室）している例や、教育相談、スクールソーシャルワーカー、メンタルサポーター派遣や担任・管理職からの定期的な連絡など、個に応じた支援を実施している。
合計		113（116）	

(2) 不登校児童・生徒への対応

(単位：人)

区 分		小学校	中学校
① 不登校児童・生徒数の合計		1 0 2	1 1 3
② ①のうち、学校内外の関係機関等（適応教室、校内別室、教育相談、子ども家庭支援センター等）と連携している児童・生徒	重複 回答あり	6 8	8 0
③ ①のうち、学校内外の関係者（担任、養護教諭、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、教育相談員等）と関わっている児童・生徒		1 0 2	1 1 3
④ ①のうち、学校内外の関係者と関わっていない児童・生徒		0	0

(3) 不登校になったきっかけと考えられる状況 ※複数選択

(単位：件)

区 分		小学校	中学校
学校に係る状況	① いじめ	5	3
	② いじめを除く友人関係をめぐる問題	2 3	2 3
	③ 教職員との関係をめぐる問題	9	3
	④ 学業の不振	2 7	3 0
	⑤ 学校のきまり等をめぐる問題	5	7
	⑥ 入学、転編入学、進級時の不適応	1 3	1 8
	⑦ 学校生活に対してやる気が出ない	3 5	4 8
家庭に係る状況	⑧ 家庭の生活環境の変化	1 2	1 8
	⑨ 親子の関わり方	2 7	2 1
本人に係る状況	⑩ 生活リズムの乱れ	3 8	3 9
	⑪ 遊び、非行	0	5
	⑫ 不安、うつ	4 0	4 8
	⑬ 障害（疑いを含む）に起因する特別な教育的支援	1 6	9
	⑭ 個別の配慮（⑬以外）	2 1	1 3